



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
11/1 (月)	+ 100	▲ 18,400	▲ 18,300	国債発行・償還(2年) 国庫短期証券 発行・償還 (3M)	補完供給 + 300 CP等買入 ▲ 900		米: ISM製造業景況指数 (10月)
11/2 (火)	+ 1,000	▲ 26,000	▲ 25,000	国債発行・償還(10年)			日: 日銀金融政策議事要旨 (9月21・22日分)
11/3 (水)	文化の日						米: FOMC ISM非製造業景況指数 (10月)
11/4 (木)	トン	▲ 9,000	▲ 9,000	地方交付税交付金 税保険揚げ			米: 貿易収支 (9月) 欧: PPI (9月)
11/5 (金)	+ 1,000	トン	+ 1,000				米: 雇用統計 (10月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初540兆8,500億円から始まった。28日には新型コロナ対応金融支援特別オペがスタートしたことで542兆4,100億円まで増加した。その後はCP等買入オペや国債発行があったが、大きく増減することはなくほぼ横ばいの541兆6,200億円で越週した。無担保コールON物加重平均金利は、週初△0.027%から始まった。地銀業態を中心に調達意欲が強く、堅調な地合いが続き、△0.028%~△0.026%の狭いレンジで推移した。月末3日積みである29日も調達動向に大きな変化はなく△0.027%で越月した。ターム物は閑散としていたものの、△0.015~△0.005%での引き合いが散見された。

来週の主な予定は、国内で2日に日銀金融政策決定会合議事要旨の公表 (9月21・22日分) 海外は3日にFOMC、5日に米雇用統計の公表がある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.080 ~ 0.001
1M	△0.050 ~ 0.020
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

<レポ>

足許GC取引は、週初から週央にかけて△0.100%~△0.095%の出合いが中心であった。月末初物については、前場△0.115%~△0.105%で推移し、後場には上昇する展開となった。短期3Mの発行日となる29日約定の取引においては、△0.100%~△0.090%で取引され越週した。SC取引では2年410~429回債、5年137~149回債、10年333~364回債、20年163~178回債、30年69~72回債、40年9~14回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.070 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆6,700億円で、週間償還額 (約1兆5,000億円) を上回った。発行市場は、鉄鋼や電力、石油業等の複数の銘柄で大型の発行が行われた。先週末の市場残高は24兆2,340億円であったが、10月28日時点では24兆5,307億円と増加した。発行レートは、発行規模や発行頻度等により幅広いレートでの約定が観測され、△0.07%台後半~0.000%での出合いとなった。26日に、CP買入れオペが予定通り5,000億円でオフアースされた。結果は案分レート△0.015%・平均落札レート△0.012%となり前回比 (案分レート△0.015%・平均落札レート△0.010%) で概ね横ばいの結果となった。事業法人の大型の発行が一定量見られたこと等、相応の売却ニーズがあったものと推測される。

来週の週間償還額は、約1,500億円となっている。発行市場は、営業日数も少なく、償還も少ないため、落ち着いた展開を予想する。発行レートは、新型コロナオペを背景とする投資家の高い担保確保需要から、希少銘柄等はマイナスレートを中心とした出合いを予想する。

<TDB>

10月29日の3M1034回債(2022年2月7日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1117% (前回債△0.1061%)、平均落札利回り△0.1143% (前回債△0.1098%) となった。来週は11月5日に3Mの入札がある。